

能美市政に関する『市民満足度』調査報告書

能美市・金沢大学 共同研究 報告書

令和2年3月

眞鍋 知子・田邊 浩

はしがき

本報告書は、能美市との共同研究「能美市市民満足度調査事業」（担当者：眞鍋知子・田邊浩，研究期間：2019年8月29日～2020年3月31日）の研究成果を取りまとめたものである。本研究は、市民が回答しやすいアンケートを制作し、アンケート結果を集計・分析し、報告書を作成することを目的としている。

能美市では、行政計画の策定等に生かすため、2年に一度、調査票による市民満足度調査を実施してきた。過去6回の調査においては、回収率は悪くないものの、質問項目によっては無回答が大半を占めることもあり、調査票の見直しが課題となっていた。だが、継続的な調査は過去のデータとの経年比較も目的の一つであり、内容を変更することには大きな決断を迫られる。

研究代表者の眞鍋は、これまで能美市の各種調査のアドバイザーを務めており、今回の調査にあたってもアドバイスを求められた。これまでの調査では市の50以上の施策の一つ一つの満足度と重要度について詳細に尋ねており、その分量の多さと抽象度の高さが無回答率を高くしているように思われた。そこで、今年度実施の市民満足度調査については、市民がより回答しやすいように、思い切って内容を見直すことを提案したところ、今回の能美市との共同研究に至ったというわけである。

このような機会を与えていただいた井出敏朗能美市長、担当部署の能美市企画振興部市長戦略室のみなさまに厚く御礼申し上げます。

本研究では、人間社会環境研究科地域創造学専攻1年の野崎亘輝さんを研究協力者とし、8月から12月までの57日間、インターンシップ生として市役所で受け入れしていただいた。野崎さんには、おもに調査票の発送と回収に関わる作業を担ってもらったが、受け入れ担当の土井睦子さんには特にお世話になった。心より感謝いたします。

最後に、本調査にご回答くださいました市民のみなさまに最大の感謝を捧げます。調査結果は、今後の市政に反映されることによってみなさまに還元されてゆくものであります。本報告書がその礎になれば幸甚です。

2020年3月20日 春分の日

眞鍋 知子（金沢大学人間社会研究域人間科学系教授）

田邊 浩（金沢大学人間社会研究域人間科学系教授）

目 次

はしがき

第1章 調査の概要	5
1 調査の目的	5
2 質問項目の主旨	5
2.1 市の取り組みへの期待と実際	5
2.2 主な質問項目	5
2.3 個人属性（性別や年齢，職業，学歴，収入）について	5
2.4 金沢大学との共同研究	6
3 調査概要	6
3.1 調査方法	6
3.2 調査期間	6
3.3 調査対象	6
3.4 回収数・回収率	6
4 調査対象者の属性	6
4.1 性別	7
4.2 年齢	7
4.3 婚姻状況	8
4.4 居住地域	8
4.5 居住年数	8
4.6 職業	9
4.7 学歴	11
4.8 世帯収入	12
4.9 暮らし向き	12
第2章 能美市での居住についての分析	15
1 はじめに	15
2 住みやすさ	15
3 住むさいに重視したこと	15
4 定住意思	16
5 転居したい理由	17
6 生活環境	17
7 能美市への愛着心	19
第3章 各種施策への期待水準と満足度	21
1 能美市の政策	21

2	各種施策への満足度	21
3	能美市の施策に対する期待水準.....	22
4	能美市の施策に対する全体的満足度	23
5	能美市の施策に対する評価.....	24
第4章 産業振興, 商業施設, 公共施設.....		27
1	はじめに	27
2	産業振興	27
3	商業施設	27
4	公共施設	29
第5章 子育て環境についての分析		31
1	はじめに	31
2	安心して子育てできる地域.....	31
3	子育てへの地域の支援	32
第6章 健康と福祉.....		35
1	はじめに	35
2	市民の健康状態.....	35
3	健康で安心できる暮らし	35
4	頼れる人	36
5	望まれる福祉施策.....	37
6	おわりに	38
第7章 協働によるまちづくりについての分析		39
1	はじめに	39
2	住民組織参加や市民活動について	39
3	市民と行政との協働のまちづくりについて	42
4	能美市の情報発信.....	44

資料1 調査票

資料2 単純集計表

資料3 自由回答